

第4回中郡中学校学校運営協議会

令和8年2月17日(火)

14時00分～16時00分

会議室

<次 第>

(開催要件 (過半数の出席) 確認)

1 会長挨拶

2 校長挨拶

3 議長の選出

4 前回会議録の確認

5 熟議

(1) 学校関係者評価の実施

①学校が自己評価の結果について説明 (鈴木教務主任・鈴木生徒指導主事)

②学校の自己評価を受け、今後の改善策について評価 (熟議) 【学校関係者評価】

- ・学校いじめ防止基本方針に基づく取組状況について
- ・その他のすべての項目について

(2) 令和8年度の学校運営の基本方針の概要説明

①学校が令和8年度の学校運営の基本方針について説明 (高橋校長)

②学校の説明を受け、学校教育目標・目指す子供像・つきたい力・重点項目等について熟議する。

③承認を得る。

(3) 学校運営協議会の自己評価

①事前にいただいた委員個々の意見をもとに、協議会としての評価を作成する。

6 連絡

(1) 夢育やらまいかCS加算分の報告

(2) 協議会委員の継続・退任・後任について

(3) 卒業式・入学式のご案内

(4) 令和8年度の開催予定日 ※協議会は14:00～16:00、13:20～13:55は授業参観

回	月 日	回	月 日
1	4月28日(火)	2	6月30日(火)
3	11月26日(木)	4	2月16日(火)

※委員の過半数の出席が必要です。ご予定の確認をお願いします。

<日 程> 13:20～14:00 受付（教頭・佐藤）
 13:58～14:00 配付物の確認（教頭）
 14:00～16:00 協議会

<配付物> ・実施授業一覧

- ・レジュメ（本紙）
- ・熟議のねらい・ゴール
- ・第3回学校運営協議会会議録
- ・令和7年度学校評価報告書(案)
- ・令和8年度グランドデザイン（案）
- ・学校運営協議会自己評価のための資料
- ・夢育やらまいか事業に対する意見書・収支決算書
- ・令和8年度9月以降における休日部活動の在り方について 説明資料

冊子になっています

- ・学校運営協議会委員研修会の開催通知・資料
- ・卒業式・入学式のご案内

<出席者>

会 長	高井 昭	副会長	本間 義章
委 員	杉本 泉	委 員	村木 富代
委 員	川島 博美	委 員	河合 洋子
委 員	小杉敬治郎	委 員	山下 功
委 員	和田 健吾		

<学校支援コーディネーター>

支援 CD	梅田 瞳
-------	------

<学 校>

校 長	高橋 基	教 頭	川合 公孝
教務主任	鈴木 智香	生徒指導主事	鈴木 祥紘
CS ティルクター	佐藤 奈帆		

<オブザーバー>

積志協働センター	小池 誠
----------	------

熟議のねらい・ゴール

ア 「何のために」話し合うか
イ 「どこまで」話し合うか

(1) 学校関係者評価の実施 ※結果を学校 HP に公開

ア 「何のために」話し合うか

学校が自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図るとともに、保護者・地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めるため。

イ 「どこまで」話し合うか

各種資料の検証や学校の諸活動の参観等を通じて、学校が行った自己評価の結果と考察、及び、それを踏まえた今後の改善方策について評価する。

(2) 令和8年度の学校運営の基本方針の概要説明

ア 「何のために」話し合うか

教育課程の編成及び学校経営に関する全体構想等、基本的な方針について協議会の承認を得るため。

イ 「どこまで」話し合うか

学校教育目標・目指す子供像・つきたい力・重点項目等が、実態を踏まえた方針となっているか熟議する。

(3) 学校運営協議会の自己評価 ※結果を学校 HP に公開

ア 「何のために」話し合うか

協議会が、自らの取組について、その取組内容や達成状況等について自己評価し、改善につなげることにより、保護者・地域住民等の学校運営への参加を促進し、学校運営の改善、及び、児童生徒の教育活動の充実を図るため。

イ 「どこまで」話し合うか

必須の評価項目である4項目、各協議会で追加する項目について話し合う。

1 中郡中学校グランドデザイン



2 自己評価結果

項目番号	分類	質問内容	質問項目	対象	1とても思う	2思う	3あまり思わない	4思わない
1	教育目標	自分に誇りを持ち、充実した学校生活を送ることができると思いますか。	学校教育目標	職員	13	74	13	0
				生徒	33	57.3	9.1	0.6
				保護者	14.7	66.3	15.8	3.2
2		将来に対する夢や希望、見通しを持って生活することができると思いますか。	キャリア教育	職員	0	69.6	30.4	0
				生徒	31.6	46.2	19.6	2.6
				保護者	8.9	47.4	37.6	6.1
3		学校での学習や授業を通して、基礎的な知識を身に付けることができますか。	学習への取組	職員	8.7	73.9	17.4	0
				生徒	32.2	54.7	11.4	1.7
				保護者	12.6	55	25	7.4
4	知	家庭内で自分の意見や考えを積極的に発言したり、話し合ったりすることができますか。	言語活動	職員	4.4	60.9	30.4	4.3
				生徒	24.9	46.5	23.7	4.9
				保護者	25.8	53.7	17.1	3.4
5		家庭学習（宿題など）の習慣が身に付き、しっかり取り組むことができますか。	家庭学習	職員	0	43.5	52.2	4.3
				生徒	28.1	47.7	20.8	3.4
				保護者	13.2	39.7	35.5	11.6
6		情報端末を使ったことで、ICTスキルや情報収集・活用能力を高めることができましたか。	ICT活用	職員	26.1	65.2	8.7	0
				生徒	37.1	51.2	11.4	0.3
				保護者	15	63.7	17.4	3.9
7		ルールやマナー守って生活できていると思いますか。	規範意識	職員	17.4	82.6	0	0
				生徒	51.2	45.6	3.2	0
				保護者	29.2	62.4	6.3	2.1
8		友達や先生や地域の人に自ら進んであいさつができますか。	礼儀・あいさつ	職員	8.7	52.2	39.1	0
				生徒	50.6	42.1	7	0.3
				保護者	22.1	61.8	15	1.1
9		思いやりや優しさをもって、周囲の人と接することができますか。	思いやり	職員	26.1	73.9	0	0
				生徒	47.7	47.1	5	0.2
				保護者	28.7	65.3	5	1
10	心	自分で考えて主体的に行動することができていると思いますか。	自主・自律	職員	0	52.2	47.8	0
				生徒	33.6	51.2	13.7	1.5
				保護者	12.4	60.5	24.5	2.6
11		家庭内において読書をしていますか。（電子書籍を含む）	読書	職員	4.3	26.1	60.9	8.7
				生徒	28.1	25.7	32.2	14
				保護者	12.1	19.5	40.3	28.2
12		家庭内において道徳の授業について話し合うことがありますか。	道徳教育	職員	17.4	78.3	4.3	0
				生徒	45.6	50	3.9	0.5
				保護者	4.4	26.6	46.1	22.9
13		困った時に相談できる友達はいらっしゃいますか。	友人関係	職員	17.4	78.3	4.3	0
				生徒	61.7	32.2	3.8	2.3
				保護者	27.4	62.1	8.9	1.6

14		生徒会や行事、部活動等を通して、よい先輩・後輩の関係を築くことができていると思いますか。	人間関係	職員 生徒 保護者	26.1 39.8 21.6	65.2 47.4 56.3	4.4 7.9 16.8	4.3 4.9 5.3	
15	心	グループ活動や学校行事において、友達と協力したり自発的に取り組んだりして、周りの役に立とうとしていると思いますか。	協調性	職員 生徒 保護者	26.1 38.6 21.6	60.9 51.2 65.3	13 8.2 9.7	0 2 3.4	
16		体育大会や文化発表会などの行事に意欲的に取り組んでいると思いますか。	学校行事	職員 生徒 保護者	65.2 50.6 33.7	34.8 41.8 54.5	0 6.2 8.4	0 1.4 3.4	
17		自分の目標に向かって、様々なことに、あきらめず粘り強く取り組むことができていると思いますか。	粘り強さ	職員 生徒 保護者	17.4 36.8 14.7	69.6 47.7 53.9	13 13.5 27.9	0 2 3.5	
18		部活動や習い事、検定など授業以外の活動で、自分を成長させることができていると思いますか。	諸活動	職員 生徒 保護者	17.4 45 32.4	69.6 44.2 49.2	13 7.6 13.9	0 3.2 4.5	
19		ゲームやSNS等の使用において、節度やマナー、時間等を守ることができていますか。	ゲーム・SNS	職員 生徒 保護者	39.1 28.9 7.9	43.5 51.5 40	13 17 40.5	4.4 2.6 11.6	
20	体	けがや病気をしないように気を付け、健康に生活することができていると思いますか。	健康管理	職員 生徒 保護者	8.7 45.9 20	87 45.9 66.3	4.3 6.5 12.9	0 1.7 0.8	
21		すべての命を大切にしようとしていると思いますか。	生命尊重	職員 生徒 保護者	26.1 58.5 41.1	69.6 38.9 57.4	4.3 2.4 1.3	0 0.2 0.2	
22		登下校中や学校生活において、安全に過ごすことができていると思いますか。	安全管理	職員 生徒 保護者	4.4 59.9 29.5	91.3 38 66.3	0 1.6 2.7	4.3 0.5 1.5	
23		学校は、生徒の学力を伸ばす努力をしてくれていると思いますか。	学力向上	職員 生徒 保護者	17.4 38 10	65.2 55.6 63.7	13 6.2 20.8	4.4 0.2 5.5	
24	学校職員	先生は、生徒や保護者の話を親身になって聞いてくれると思いますか。	教育相談	職員 生徒 保護者	43.5 44.7 22.6	52.2 50.3 68.7	4.3 4.5 7.6	0 0.5 1.1	
25		先生は、生徒を励まし、頑張りを認めてくれていると思いますか。	称揚	職員 生徒 保護者	39.1 48.5 21.8	56.5 46.2 69.2	4.4 4.8 7.9	0 0.5 1.1	
26		地域の活動（地域ボランティアや地域防災訓練）に積極的に参加していますか。	地域貢献	職員 生徒 保護者	8.7 23.1 7.4	65.2 29.8 30	26.1 35.1 42.1	0 12 20.5	

3 考察及び改善方法

(1) 校訓・学校教育目標・キャリア教育等について

【考察】

- ・校訓（自立・敬愛）に関わることとして、自分で考えて行動することができていると感じている生徒は85%、目標に向かって様々なことに諦めずに粘り強く取り組んでいると回答した生徒は85%であった。（※前年度とほぼ同様）また、95%の生徒が、思いやりや優しさをもって周囲の人と接していると回答し、94%の生徒が困った時に相談できる友達がいると回答した。先生は生徒や保護者の話を親身になって聞いてくれると回答した生徒は95%、先生は生徒を励まし、頑張りを認めてくれると回答した生徒は95%であった。**※前年度と同等**
- ・学校教育目標に関わることとして、90%の生徒が自分に誇りを持ち、学校生活に感動をもって挑戦することができていると答えた。**※前年度より10ポイントアップ!**

【更なる向上を目指すために】

- ・学校運営協議会等を通して地域の豊富な人材を活用し、各学年の目標に則した方法や内容で各種体験的な活動を実施し、望ましい大人像をもてるよう育みたい。
- ・生徒の良いところや頑張りを称揚し、「充実」をキーワードに学校生活の質を高めたい。

(2) 「高い知性」について

【考察】

- ・家庭学習の習慣が身に付いていると考えている生徒は76%であるのに対し、保護者は53% 教職員は44%であった。**※前年度より生徒は6ポイントアップ、保護者・教員は5ポイント程度ダウン**
- ・学校は学力を伸ばす努力をしていると感じていると回答した生徒は94%に上った。
- ・情報端末を使用したことで、ICTスキルや情報収集・活用能力を高めることができたと回答した生徒は89%であった。→一方で保護者の肯定的な意見はそこまで伸びず、学校での活用状況が十分に伝わっていないようである。**※前年度と同等**
- ・家庭学習全般において、生徒の肯定的な意見は多いが、職員及び保護者は家庭学習習慣について満足していない。

【改善方法】

- ・生徒が「やっているつもり」で終わらないよう、学年に応じた具体的内容や時間、望ましい学習の進め方を明文化し三者で共有する必要がある。そのために、学習オリエンテーションの内容を保護者に周知していく。→さくら連絡網で学校HPに掲載があることに触れる。
- ・タブレット学習の様子を発信したり、タブレットを使用した家庭学習を提示したりする。

(3) 「豊かな心」について

【考察】

- ・ルールやマナーを守って生活できていると答えた生徒は97%、道徳の授業の充実を感じている生徒や職員は90%を超えてるが、保護者は生徒が家庭で道徳の授業について多く語ってはいないと感じている。**※前年度と同等**
- ・あいさつに関する項目については93%の生徒が進んで行うことができると答えた。
- ・読書に関する回答は保護者・教職員の全てにおいて50%未満であり、生徒も54%である。
- ・集団生活の中で周囲と望ましい人間関係を築き、困った時に相談できる友達がいると回答した

生徒は多い。また、ほとんどの生徒は、学校における様々な活動を通して自らの役割を自覚して活動していると感じている。特に、文化発表会や体育大会等の行事には意欲的に取り組んでいると回答した。※前年度と同等

【改善方法】

- ・ 道徳授業の振り返りを教室掲示したり、三者面談で生徒の考えを紹介したりすることで、道徳授業の様子を保護者に発信していく。(今年度、1年生で行った「いいところ見つけ」を保護者に紹介したところ、たいへん好評であった)
- ・ ブログに、学校行事だけでなく道徳授業の様子を載せる。
- ・ 読書については、①登校後、朝の会までの時間に読書を推奨する、②昼休みの図書室開放日を今年度より増やす。(行事練習日を調整して昼休みの読書時間を確保する)

(4)「健やかな心身」について

【考察】

- ・ ゲームや SNS の使い方に関して、マナーや時間を守れていると考えている生徒が80%であるのに対し、保護者は48%と低い ※前年度より生徒は6ポイントアップ、保護者は3ポイントダウン
- ・ 学校生活や登下校における安全、自他の存在を尊重したり全てのいのちを大切に思ったりする態度等に関する数値は極めて高く、生徒は安心して学校生活を送ることができていると考えられる。
- ・ いじめについては、昨年度に引き続き、今年度も教職員が年度当初に「中郡中学校いじめ防止基本方針」を周知徹底する機会を設け、単なるけんかやトラブルと捉えず、組織として対応し、慎重に見守る体制で指導を続けてきた。今年度に本校が認知したいじめ件数は、1月末の時点で72件である。昨年度1月末までに認知したいじめ件数は94件であり、今年度は22件減少した。6月に生徒が主体となって、いじめを防止するために何ができるかについて考える機会を設けたことが、いじめを未然に防止することに繋がったと思われる。
- ・ 学期ごとのいじめアンケートを教育委員会と連携して行い、積極的に認知し早期発見・対応に努めた。一方、職員からアンケート後の聞き取りに要する時間が不十分だったと声が上がった。

【改善方法】

- ・ SNS 等の使い方については、望ましい態度やスキルを身に付けられるよう、継続的かつ計画的な指導が必要である。そのために、学期に1回程度、道徳や学活の時間に「情報モラル」や「SNSの使い方」をテーマにした学習を位置づける。
- ・ 学期の振り返りに「SNSの活用」を入れることで、生徒の情報モラルへの意識を向上させる。
- ・ 外部機関の講座を積極的に活用し、専門家の視点からも生徒に啓蒙していく。
- ・ 幼小中の連携を大切にして、情報交換を定期的に行い、効果的な教育計画の中で、校区全体で生徒を見守っていききたい。また、地域の行事に積極的に参加するよう生徒に呼び掛けたり、地域の方に学校の教育活動に積極的に関わってもらったりすること等を通して、地域全体で生徒を見守る体制づくりを進めていきたい。
- ・ 令和8年度も教職員へいじめに関する研修を行い、積極的な認知に努める。
- ・ 生徒会を中心に、生徒が主体となっていじめについて考える機会を設けたい。
- ・ 令和8年度はいじめアンケート後に必ず二者面談を行える時間を確保し、丁寧な対応に努める。

令和8年度 中郡中学校グランドデザイン(案)

第4次浜松市教育総合計画

【教育理念】 描く夢や未来の実現

中郡中学校区で目指す子供の姿

自他を大切にし、主体的に行動できる子ども

校訓 自立・敬愛

自立：かけがえのない自分の人生を自分で選び、創り上げていく生徒
敬愛：自他をかけがえのない存在として認め合う生徒

学校教育目標

自分に誇りをもてる生徒の育成

スローガン

【誠実に生き 一人一人が充実した生活を送る】

学 充実した学び

★魅力的な授業を通して

- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- 専門性を有する授業者による充実した学びの空間の構築
- 主体的に学びに向かう態度の育成
- ICTの効果的な活用

心 豊かな心

★道徳や特別活動等を通して

- 道徳科の授業の充実
- 生徒主体の活動を通じた社会性(協働)の醸成
- 学校行事・授業を通じた多様な価値との出会いと認め合い
- 「豊かな心」を育成する意図的な活動の企画

命 健やかな心身

★日常の生活や活動を通して

- 発達段階に応じた適切な身体づくり
- 日常における自他の健康安全意識の醸成
- 安心・安全な生活空間の構築(いじめや不登校等への対応)
- 健康教育・防災防犯教育活動の充実

浜松市の教育理念に基づく3つのコンセプト

1 主体性

<自分の心で動く>
・じっくり考え、自分を信じて、自ら踏み出そう！

2 多様性・包摂性

<自他ともに大切>
・かけがえのない自分と他者、互いを尊重してみんなが笑顔に！
・心も身体も元気！

3 信頼・協働

<力を合わせて>
・人は一人では生きていけない。巡り会った人たちと力を合わせて生み出そう！

を大切に

コンセプトの具体的なイメージ
<中郡中版>

地域とともに創る

家庭とともに育む

学校を支える基盤

- ◎ 各分野における専門性や指導力、対応力の向上を追究する「誠実」な職員
- ◎ 「生徒」「保護者」「地域」「職員」が信頼でつながる温かみある関係性
- ◎ 学校運営協議会と共に築く「学校」「家庭」「地域」の連携・協働、学びの充実

中郡中 キーワード：「誠実」「充実」

グランドデザイン(令和8年度)について (案)

1 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(令和3年 中央教育審議会答申等) <国の指針>

令和3年に示された中央教育審議会の答申より「令和の日本型学校教育」の総論部分において、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要」と記されている。

また、「2020年代を通じて実現を目指す学校教育」として以下のようなことが示されている。

- ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実
- ・主体的・対話的で深い学びの実現
- ・環境の変化を前向きに受け止め教職生涯を通じて資質や能力の向上を図り学び続ける教師
- ・子供の学びを最大限に引き出す教師
- ・ICT環境をはじめ新しい時代の学びを支える環境整備
- ・校務の効率化等、学校における働き方の改革の推進

さらに、次期学習指導要領の改訂に向け、文部科学省では、その論点整理において「生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続可能な社会の創り手をみんなで育む」という、一段進化させたイメージをもっている。

2 第4次浜松市教育総合計画 <浜松市の指針>

(1)基本理念:描く夢や未来の実現

こどもとこどもの成長を支える教職員、学校、家庭、地域それぞれが描く夢や未来を実現していく。

(2)コンセプト

・主体性

物事を自分事としてとらえ、目前の課題の解決や、描く未来の実現に向けて粘り強く取り組む。

・多様性・包摂性

一人一人の自分らしさを認め、互いを尊重しあいながら、誰もが活躍できる環境を実現していく。

・信頼・協働

それぞれの立場の人が、人や組織に信頼を置き、協働したり、相互に作用したりして、より良い関係性を構築していく。

(3)目指すこどもの姿

- ・自分らしさを大切にすること
- ・他者と協働し、主体的に行動できること
- ・自己調整しながら、粘り強く取り組むこと

(4)目指す教職員の姿

- ・こどもの自分らしさを受け止める教職員
- ・愛情と情熱、規範意識を持ち続ける教職員
- ・専門性と指導力を磨き続ける教職員

3 浜松市立中郡中学校が目指すもの <国や市の指針と中郡中の歴史や伝統を踏まえて…>

上記「令和の日本型学校教育」「第4次浜松市教育総合計画」等を受け、中郡中学校として具体的にどのような姿を目指していくか、以下に示していきたい。

(1)中郡中学校区の目指す子供の姿

- ・自他を大切にし、主体的に行動できるこども（令和7年度より）

(2)本校の校訓「自立・敬愛」

自立： かけがえのない自分の人生を自分で選び、創り上げていく生徒

敬愛： 仲間もかけがえのない存在として認め合う生徒

開校47年目を迎える歴史を持つ中郡中学校であるが、令和の今こそ大事にしていくべき大切な言葉が刻まれている。先人の思いや今求められている教育の姿を忘れることなく、この校訓を職員、生徒の一人一人が意識して学校生活を送ることを心掛けたい。

(3)学校教育目標「自分に誇りをもてる生徒の育成」→ 自分って大切で、こんなにいいんだ！

校訓である「自立」と「敬愛」をより分かりやすくした表現として「自分に誇りをもてる」としている。まず、自分の存在（命）の尊さや価値をしっかりと理解する。自らの尊さや価値の理解とは、「自分のよさ」「自分らしさ」を実感し、「自分とは…」と自信を持って語り行動できるようになる（自立）ことである。これが「自分に誇りをもつ」ことにつながる。その上で、他の存在も同様に尊く価値あるもの（敬愛）として理解する。その理解はやがて、それぞれの言葉や行動に現れ、確かな自分と大切な他者との協働によって、新しい時代の社会をよりよく形成していくことにつながっていくと考える。「自分に誇りをもつ」ことは、自立と敬愛に不可欠なことである。

(4)スローガン「誠実に生き一人一人が充実した生活を送る」

学校教育目標の「自分に誇りをもてる生徒の育成」を実現するために、どのような日々の学校生活をイメージするかということ表現したものが、スローガンとして掲げた「誠実に生き一人一人が充実した生活を送る」である。以下に「充実」の具体的なイメージの例を示してみる。

- ・今日はこんなことを学んだ。新しい発見があって楽しかった。
- ・今日はこんなことが大変で疲れたけど、今までにない経験でためになった。
- ・みんなと協力してチャレンジして、次も頑張ろうと思った。
- ・ちょっとキツイ思いもしたけど、乗り越えて少し成長した気がする。
- ・仲間や先生と楽しい話をしてハッピーな気持ちになった。
- ・悩むことがあるけど、考えたり相談したりして次の一歩を踏み出そうと思った。

等々
学校での生活を振り返った時に、上記のように、ほんの少しでも「プラス」の感情があると「充実していたな」と思い返すことができるのではないかと考える。これは、生徒だけでなく職員も同様である。充実した日々は、それぞれにとって生きる自信となり、自らを誇りに思うことにつながるのではないだろうか。

ただし、この充実感を阻害するものがある。その大きな存在の一つが人間関係の中で生まれるものである。「意地悪な言動」「いじめ」がその最たるものである。その他に「人に迷惑をかける言動」「自分よがりの我がままな言動」等、一人一人が充実した生活を送ることを阻む他者の好まざる言動があげられる。これらは、減らし、さらに無くしていかなければいけない。ここで「誠実」が大切になってくる。皆が真心や責任感をもって人や物事に向き合い、嘘や偽りなく正直に振る舞う「誠実さ」をもって生きれば、一人一人の充実感を阻害する要素はなくなってくると思うのである。

「誠実に生き一人一人が充実した生活を送る」ことは、「自分に誇りをもてる」ことであり、さらに校訓である「自立」「敬愛」につながっていくものである。

(5)学校の具体的な取組

前述の国や市の指針を大切にしながら、中郡中学校が行おうとしている「一人一人が充実した生活を送る」ための学校としての取組を、『学』充実した学び、『心』豊かな心、『命』健やかな心身の3つに分けて示している。そして、それぞれの具体的な取組自体が「充実」したものになるようにしたいと考えている。

- ① **『学』充実した学び**：主に魅力的な授業を通して（主とする取組4項目）
 - ・ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
 - ・ 専門性を有する授業者による充実した学びの空間の構築
 - ・ 主体的に学びに向かう態度の育成
 - ・ ICTの効果的な活用
- ② **『心』豊かな心**：主に道徳や特別活動等を通して（主とする取組4項目）
 - ・ 道徳科の授業の充実
 - ・ 生徒主体の活動を通し社会性（協働）の醸成
 - ・ 学校行事・授業を通した多様な価値との出会いと認め合い
 - ・ 「豊かな心」を育成する意図的な活動の企画
- ③ **『命』健やかな心身**：主に日常の生活や活動を通して（主とする取組4項目）
 - ・ 発達段階に応じた適切な身体づくり
 - ・ 日常における自他の健康安全意識の醸成
 - ・ 安心・安全な生活空間の構築（いじめや不登校等への対応）
 - ・ 健康教育・防災防犯教育活動の充実

上記、具体的な取組について、学校の職員、生徒のみならず、保護者や地域の理解と相互の連携、協働によって実現させていくことが求められていくことになると考えている。

4 学校を支える基盤として

(1)「誠実」な職員

学習指導、生徒指導、保護者との連携、有事の緊急対応等、学校の職員を取り巻く環境では、さまざまなことへの対応が求められる。経験知、各職員の持ち味、年齢、分掌上の役割等、それぞれが持つ力量等によって、対応の方向性は同じでも味付けは異なる。この時一貫して大切にしていなければならないのは「誠実」に対応することである。

中郡中学校の職員は、どのような状況の、どのような場面であっても「誠実」に取り組むことを基本としていきたい。

学習指導における「惰性」や「まんねり」は封印し、個や集団に応じた丁寧な対応をするとともに、教科等に関する最新の情報や技術等にも関心を寄せ、常に自らが学ぶ姿勢を持ち続ける「誠実」な態度で臨みたい。

生徒指導の場面でも、例えば加害と被害の関係性があるような場合、陥りがちな発想として「加害＝否定されるべき者」という構図があるが、なぜそうなったのか「加害」の側についても「被害」と同様に傾聴する意識を持って「誠実」に当たることを求めたい。そのうえで、毅然とした姿勢で次の段階へ進んでいくことが必要である。同様に、保護者からの訴えや要望についても、まず相手を尊重して傾聴し、課題等を整理する等の意識を持ちたい。

あらゆる事案に対して、学校総体として「誠実」（丁寧できめ細かく、想定される今後の反応等の見極めを含めた対応）に取り組んでいくことを進めていく。いわゆる「テキトー」は排除していきたい。

(2)信頼でつながる温かみのある関係性

人と人のつながりは、互いが心を開いて本心で語り合える関係であればあるほど深く強いものである。そのつながりを言い換えると「信頼」である。信頼がある関係性の中では、人は安心、安全を感じ、自らの思いを表現したり力を発揮したりできる（充実した取組ができる）と考えられる。相手を尊重し本心で通じ合う信頼関係は温かみのある関係であり、職員同士、生徒と職員、保護者・地域の方と職員が、このような関係性を築き深めていこうとする意識は、常に持ちたいと考える。

この思いを前提としたときに、学校自らがその信頼を失う状況に陥ってしまう最大の事態が「不祥事案件」の発生である。学校の職員は、その職責の重さと公人としての高い意識を常に心にとめて職

務にあたらなければいけない。そのためにも学校内の職員同士の信頼関係の構築は重要な課題であり、あらゆる角度、あらゆる立場から、その関係性の充実に向けた対策を講じたいと考える。

(3) 学校運営協議会との連携・協働

学校運営に対して協力的な地域人材として自治会の代表者、企業や事業者、協働センター等の行政関係者や県や市の議員、民生委員等があげられる。学校運営協議会は、それらの地域人材の中から、地域の学校をより良いものにしていくために選抜された方々により、人的、物的、知的に学校の歩みを応援（支援）していただくことを議論する組織として位置づけられている。協議会では、学校の求めや課題に対して熟議を重ねた上で必要な支援等について検討され、学校運営に反映され、子供の学びの一助となっている。現在の学校を取り巻く環境は、変化が激しく、今までの価値観だけでは応じることができない多様で複雑な状況になっている。令和の時代にふさわしい学校教育の在り方について、学校運営の中心の組織の一つとして第三者としての視点も持ちつつ協働的に関わっていく姿勢を相互に持ち合わせたい。

